

インフルエンザ

学習内容

1. 疫学
2. 予防策, 個人防護具 (PPE)
3. ワクチン接種

疫学 (1)

- RNAウイルスである。
- A, B, C 3型に大別されるが、流行するのはA, Bのみ。
- かつて「低温, 低湿を好み, 寒い時期に流行する」と言われたが, 季節にかかわらず, 夏でも流行する。例えば, 2009年型H1N1株は, わが国では, 8~10月に流行のピークがあった。

疫学 (2)

- 2008/09年シーズンまで毎年3種類のインフルエンザが流行していた。1968年以来の①A香港型(H3N2), 1977年以来の②Aソ連型(H1N1), およびB型, であった。
- 2009年に新しいH1N1株が出現し, 2009/10年シーズンには, ②Aソ連型H1N1を一気に駆逐し, 完全に入れ替わった。
- 2011/12年シーズンはA香港型H3N2が主体で, ほか2009年型H1N1, B型が見られた。

感染予防策

- 飛沫および接触予防策
- 特殊状況下では, 空気感染予防策
 - ・気管挿管
 - ・気管支鏡検査
 - ・非侵襲的陽圧人工呼吸

手指衛生とPPE

- 手指衛生(手指消毒 / 手洗い)
- 手袋, マスク, ガウン(エプロン)

状況に応じて, 以下を加える

- 目の保護: フェイスシールド, ゴーグル, フェイスガード付きマスク,
- N95マスク(気管挿管時など)

最重要 (1) 手指衛生



最重要(2) 咳エチケット

咳がある人のマスク着用

してはいけないこと

目，鼻，口を洗わない手で触る



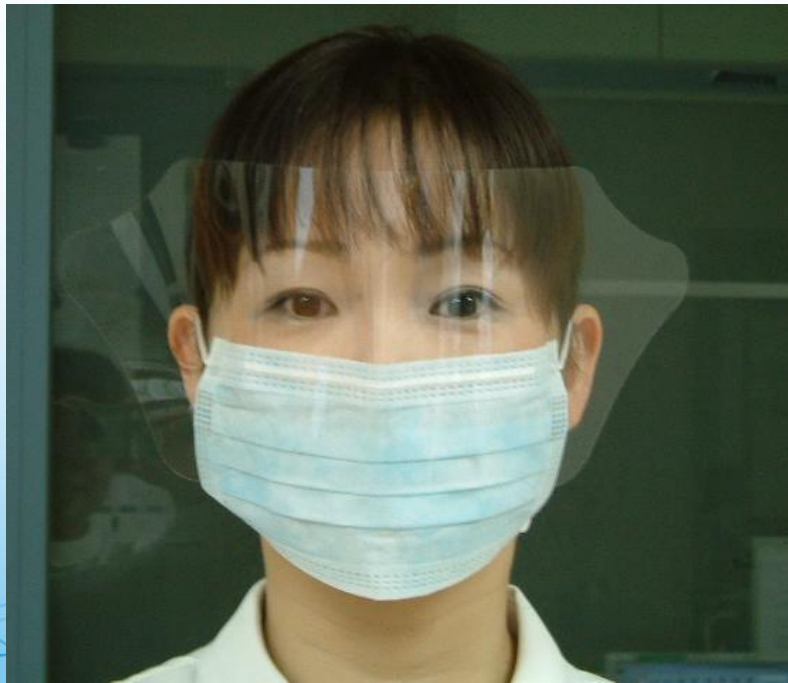
病室

- 個室
- 総室, カーテン隔離

個人防護具

目保護シール付きマスク

外科用マスク
ゴーグル



※ただし、目の保護の意義についてエビデンスは確立していない

個人防護具：特殊状況

- 手袋
- N95マスク
- ゴーグル
- エプロン(ガウン)



※ 気管挿管, 気管支鏡検査のとき, など

外来 待合 ゾーニングの例



インフルエンザワクチン

不活化ワクチン

A:H1N1, A:H3N2, B の3種類に対応

効果

発症予防

健常高齢者 70～90%

入院・入所高齢者 30～40%

重症化予防 50～60%

死亡の減少 80%

インフルエンザワクチン

対象

- 65才以上の成人
- 基礎疾患のある患者
- 医療機関で従事する者
- 医療系の学生

妊婦，気管支喘息患者 も含まれる

※ただし，妊婦についても安全に接種できるが，自然流産の多い14週までを避けることが望ましいとの意見もある

Q & A (1)

インフルエンザは寒冷，乾燥を好むため，夏季には流行しない

YES

NO

季節にかかわらず，夏でも流行する。たとえば，2009年型H1N1インフルエンザウイルスは8月～10月に流行のピークがあった。また2012年7月には沖縄県においてA香港型H3N2が警報レベルに達した。

Q & A (2)

インフルエンザの予防策の中心は、マスク着用などの飛沫予防策であり、手指衛生の重要度は比較的低い

YES

NO

患者由来の飛沫が環境に付着し、接触によって伝搬する。手指衛生は最も重要なインフルエンザ予防策のひとつである。

Q & A (3)

インフルエンザの患者を個室ではなく、総室に入れてカーテンによる隔離を行ってもよい

YES

NO

インフルエンザウイルスは特殊状況（気管挿管、気管支鏡検査時など）以外では空気感染はしないので、総室での管理も可能である。

Q & A (4)

インフルエンザワクチンは生ワクチンであるため、
免疫能低下患者や妊婦には接種しない

YES

NO

注射用インフルエンザワクチンは不活化ワクチンであり、免疫能低下の患者にも接種が可能である。妊婦にも接種できる。ただし、妊娠初期はもともと自然流産の多い時期であり、本人の十分な理解を得た上で接種する。

参考文献

- 日本環境感染学会ワクチンに関するガイドライン改訂委員会. 医療関係者のためのワクチンガイドライン第2版. 環境感染誌 SupplⅢ, 2014